

郷土資料館だより

Vol. 28 No.1
2005.11.20

三島の中の戦争遺跡マップ

大練兵場跡(東レ工場一帯)
連隊の普段の訓練場。現在お題目塔が立っている。

第2連隊将校集会所
(日本大学)
将校集会所が移築保存されている。

旧陸軍病院(市民体育館)
連隊とともに設置された病院。戦後は一般市民を治療した。

戦後60年たち、戦争の記憶が薄らいできました。ふるさと講座「戦争の遺跡を訪ねて」(8月13日)で、三島市内に残された戦争遺跡をたどりました。

連隊の営門と歩哨舎(北中学校・北小学校)
北中学校 - 第二連隊、北小学校 - 第三連隊の正門

旧陸軍墓地(加茂川町)
野戦重砲兵連隊の戦没者を記っている。

忠霊殿(妙法華寺)
錦田地区の日清戦争以降の戦没者の位牌を祀る。

帰ってきた「幸運の鐘」
(妙法華寺)

奉安殿(西若町・若宮神社)
西小学校から移築された。現在は天神社。

伊豆魂神社(三嶋大社)
西南の役(1877年)から太平洋戦争までの伊豆出身の戦没者を祀る。

旧中島飛行機(国立遺伝学研究所)
昭和18年から終戦まで、戦闘機の一部を生産していた。

旧憲兵分隊(商工会議所)
軍隊の水源
軍用水道を市配水所に確保した。現在の井戸跡は戦後のもの。

防空壕跡(夏梅木・個人宅)
空襲の危険から逃れるため、校庭や空き地・個人宅に作った穴や施設。

出征馬記念碑(竹倉)
出征馬の武勲を称え、その霊を慰めた。



三四呂人形報告

「三四呂人形—野口三四郎の芸術—」

開催期間 平成17年3月19日(土)～5月29日(日)合計63日間 入館者数 10,791人

三島市出身の芸術家・野口三四郎の創作した「三四呂人形」について、現存する人形を中心にスケッチなども交えて紹介しました。

会期中の来館者の反応は様々でしたが、初めて見たという方がかなり多く、市民の間にあらためて三四呂人形を広く知っていただけることができました。また、すでにご存知の方の多くは複製としてお土産で売り出した三四呂人形の印象が強く、野口三四郎という人形作家の人物像の認識を新たにされているようでした。

今回の展示は前回の企画展示（昭和58年）から20年以上が経ってしまいましたが、三島市の貴重な文化財として、企画展示以外にも多くの機会に市民に紹介し、広め伝えていきたいと思います。



▲野口三四郎と三四呂人形

講演会報告

「三四呂人形を修復して見えてきた事」

日時 平成17年3月26日(土) 13:30～15:30

場所 三島市民文化会館 大会議室

講師 藤野いづみ氏（美術品修復家・宮城学院女子大学講師）

藤野氏は郷土資料館の三四呂人形の修復に平成6年度より携わってきています。現在まで30点あまりの三四呂人形修復を手掛けた中で見えてきた事、三四郎の技法や張子へのこだわりなど、三四呂人形の魅力とこれらにまつわる裏話などをご紹介いただきました。



▲影ふみ

身軽さ

少女のステップの軽快さには、張子の紙の軽さが生かされている。また張子の技法でここまで細かい手足の表情を作り上げるのは、相当の苦労があったと思われる。



▲春日庭

揺らぎ

あえてブランコを固定せず、わずかな震動によって揺らぎが起こるよう、木台裏底面に工夫をほどこしている。



▲ハチ公

紙塑

紙粘土を固めて型を作り、その上に和紙を貼り彩色を施している。

ふるさと講座「戦争の遺跡を訪ねて」

8月13日(土)9:00~16:00 出席者30人
講師 土屋寿山氏 (郷土史家)

第二次世界大戦終戦後60年を経過し、戦争体験者が少なくなってきました。今回の講座は、戦時中の話を聞き、三島に残る戦争遺跡を訪ね、戦争に対する理解を深めてもらうことを目的に開催しました。

楽寿園駅前口ー簡易裁判所(旅団司令部跡)ー北小学校(第三連隊の門)ー北中学校(第二連隊の門)ー日本大学(旧野戦重砲兵連隊将校集会所)ー東レ工場(南無阿弥陀仏の碑)ー商工会議所(憲兵隊跡地)ー市給水所(軍隊の井戸)ー三嶋大社(慰霊碑「伊豆魂神社」)ー加茂川町(旧陸軍墓地・忠魂碑・平和の碑)ー谷田五本松(小山押切射撃場)ー国立遺伝学研究所(中島飛行機三島製作所地下工場跡)ー谷田夏梅木の個人宅(防空壕)ー竹倉の殉国之碑・出征馬供養塔ー玉沢妙法華寺の海軍戦没記念碑(軍艦愛宕、駆逐艦・梅、朝霧)、帰ってきた幸運の鐘ー若宮神社(奉安殿)

当日は薄曇りの好天に恵まれました。交通事情等も良好で、特に事故等もなく予定コースを無事見学することができました。

目的地に向かう道々で、講師から様々な名所旧跡を案内していただき、また夏梅木の鈴木様から戦時中に近所の人たちとみんなで防空壕を入り口がふさがった時のため出口を広げたことなどの貴重なお話を伺うことができました。

今回は募集定員30名に対し、50名の参加と人気の有る講座でした。参加者の中には戦争体験者もいたため、戦艦等色々な体験の話の話を聞きました。

戦争の遺跡を忌避して取り払うだけでなく、過去の遺産として残して次世代に語り継いでいくことも大事なことの感想が、参加者から寄せられました。



▲野戦重砲兵連隊旧将校集会所(日本大学)にて



▲北小学校の旧連隊の門と歩哨塔にて



▲旧連隊の門に残る部隊の表示



▲「幸運の鐘」に残る弾痕

帰ってきた「幸運の鐘」

昔、玉沢妙法華寺の大釣鐘の音は、夕暮れの農作業を終える合図として親しまれていました。

戦争で金属が乏しくなった昭和17年暮れ、ついに大鐘も溶かされ武器に変えられるため、運び出されました。

しかし戦後、奇跡的に三重県四日市に発見され、数ヶ所の機銃掃射のあとはあったものの無事に寺に戻ることができ、幸運の鐘として今も鐘の音を響かせています。

企画展 「江戸時代の小説～佐野・勝俣文庫から～」

平成17年10月2日(日)～平成18年1月15日(日)

監修 明星大学 講師 勝又 基 氏 (文学博士 国文学研究資料館文献調査員)

後援 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館

資料点数 40点(約1000冊)



▲曲亭馬琴『南総里見八犬伝』

勝俣文庫は、三島の俳人、滝の本連水^{たき もとれんすい}を生んだ伊豆佐野・勝俣家が収集した古書籍類で、現在当館が寄贈を受けて所蔵しているものです。ここ数年、勝俣文庫について国文学研究資料館の文献資料調査が行われておりますが、その中で最大の発見は、同文庫が俳諧だけでなく、小説や和歌・随筆など、幅広いジャンルにわたる書物を持っていたということです。

今回の展示は国文学研究資料館の協力を得て、勝俣文庫として収蔵されている作品のうち、江戸時代の小説をテーマに展示いたします。

- (1) 勝俣文庫の小説…曲亭馬琴『南総里見八犬伝』ほか
- (2) 三島を舞台にした新発見の小説…勝俣清作『敵討田前豪傑伝』
- (3) 江戸文学の人気者たち…弥次さん喜多さん、曾我兄弟、一休さん、赤穂義士
- (4) 江戸文学のさまざまなテーマ…怪談と化け物、異界への旅、滑稽、遊郭、災害、畸人伝
- (5) 勝俣文庫本に見える三島…『絵本どどいつ総まくり』ほか



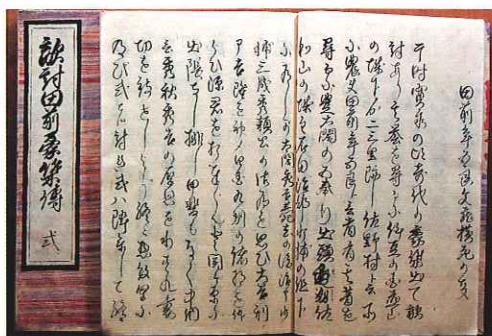
▲曲亭馬琴『夢想兵衛胡蝶物語』

三島を舞台にした新発見の小説 ～『敵討田前豪傑伝』～

勝俣文庫には写本による小説が多いのですが、その中に『敵討田前豪傑伝』という見慣れない作品を見つけました。

読んでみるとそれは、伊豆佐野を舞台にした敵討ち小説でした。伊豆佐野の豪傑・田前年十郎は、矢の坂で父を殺されて敵討ちを決意。諸国を旅して、熊本で敵・山口六平ら5人を討ち果たすという物語でした。

著者名は勝俣清作、滝の本連水の長男です。跋文などから明治4(1871)年に出来た作品である事が分かります。清作は明治8(1875)年に21歳で没していますから、この作品は清作17歳の作という事になります。



▲『敵討田前豪傑伝』

いかにも敵討ち小説を良く読んでいた人らしく、敵討ちの典型的なストーリーが踏まえられています。そして三島の人物が書いた三島を舞台とした小説であること、勝俣家における小説の読書が、創作にもつながっていた事を示す点で、勝俣文庫のなかでも貴重な作品であると言えるでしょう。

平成16年度事業の報告

1 企画展示

テーマ	実施日	入館者	展示内容	備考
百年前に夢見た未来	4月25日(日) ～7月4日(日)	7,664人	100年前の明治人が100年後の未来をどのように予想し、実現されたかを検証した。 ・通信の変遷 ・台所まわりの移り変わり ・冷暖房の変化・交通の様変わり	パンフレットの作成
チョウとトンボ ～のぞいてみよう! 虫の世界～	7月18日(日) ～11月7日(日)	19,139人	塚田コレクションを中心に世界のチョウを紹介。三島のチョウやトンボなどを紹介し、身近な自然環境を考えた。 ・世界のチョウ(塚田コレクション) ・三島の昆虫生息状況 ・チョウやトンボのしくみ	ポスター及びパンフレットの作成
三市博物館共同企画展 「暮らしの中の 食文化」	11月16日(日) ～2月27日(日)	10,617人	県東部の食文化について古代からの流れ、現代の地域性ある日常料理を紹介した。 ・古代官吏の食 ・学校給食 ・地域性のある日常食(おでん・いるか)	ポスター及びパンフレット作成
三四呂人形 -野口三四郎の芸術-	平成17年 3月19日(日) ～5月29日(日)	10,791人	市民の貴重な文化財である三四呂人形。今回は新たに、野口冬樹氏から寄託された資料を中心に紹介した。 ・三四呂人形 ・野口三四郎スケッチ ・製作過程	ポスター及び図録作成
企画展入館者数	合計	48,211人		

2 教育普及活動

講座名	日程	参加者数	内容	講師
縄文土器作り (3回連続)	① 7月30日(金) ② 8月4日(水) ③ 8月25日(水)	12人	体験教室①土練り②成型③焼成、古代体験(勾玉作りなど)	文化振興課職員 館職員
ワークショップ	5月3日(月)	8人	竹細工のおもちゃ作り	瀬川 到氏
	5月4日(火)	6人	裂き織り体験	杉山 洋子氏
郷土教室(1回)	8月21日(土)	27人	夏休み昆虫教室	加須屋 真氏ほか
ふるさと講座(3回)	6月3日(木)	18人	中郷地区を歩く	小泉 安三氏
	10月21日(木)	26人	頼朝と葦山めぐり	迫田 信行氏
	11月6日(土)	30人	箱根東坂を歩く	大和田 公一氏
企画展関連講演	平成17年 3月26日(土)	30人	「三四呂人形を修復して見えてきた事」	藤野 いづみ氏
教育普及活動 参加者	合計	157人		



▲三四呂人形



▲本陣家史料集

平成16年度刊行物の案内

◎図録再版『三島宿』 頒布価格400円

ご好評いただきました図録『三島宿』を再版しました。

◎図録『三四呂人形-野口三四郎の芸術-』頒布価格 800円

三四呂人形の作品の紹介と作者野口三四郎の人物を紹介しています。

◎史料集『三島宿本陣家史料集(17)』(市立図書館等にて閲覧できます)

三島宿本陣・樋口家史料のうち、幕末第14代将軍徳川家茂の上洛に関する文書を収録。

本町タワービル4階「ふるさと歴史文学コーナー」

寄贈資料紹介

企画展「三島宿の紹介」

開催期間 平成17年4月1日(金)～10月11日(火)



平成17年4月1日にオープンした三島本町タワービルの4階に「ふるさと歴史文学コーナー」を設けました。

「ふるさと歴史文学コーナー」は大通り商店街(旧東海道)や、せせらぎの道を歩く人々がこのコーナーに立ち寄り、三島の歴史、

民俗、文化財及び文学者について広く知られるコーナーです。

開設にあたり、宿場町として栄えた江戸時代の三島宿をテーマに、安藤広重の「朝霧」や三島宿を描いた数々の浮世絵、三島宿の復元模型、樋口本陣の復元模型や復元した本陣料理、旅支度などを通じて、賑わった宿場の雰囲気を感じ、郷土について一層興味を持つ機会となったことと思います。

なお、7月末より8月の土日には午前午後展示解説をし、多くの方々が参加しました。

平成17年1月から4月に、次の方々からご寄贈のご協力をいただきました。

ありがとうございました。

勝保 誠 (三島市)

消防用刺子 2 大正期

渡辺典子 (三島市)

木銃 1 旧制中学にて

配給当番札 1 戦時中 ほか

勝呂満夫 (沼津市)

タカアシガニ魔除面 3



▲旧戸田村のタカアシガニ魔除面

— 新館長挨拶 —

今春、郷土資料館長として着任しました。今後とも多くの市民の皆様のご助言をいただき、三島市の文化を継承する場として郷土資料館を盛り立てていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。(水谷盛彦)

平成17年度郷土資料館職員

館長 水谷盛彦

畑中めぐみ、増井光一

鈴木隆幸、竹之内修、佐藤劭

第2回企画展「遺跡のいまむかし」

10月15日(土)～平成18年3月31日(金)まで

三島には日本でも最古に数えられる2万7千年前の初音ヶ原遺跡を初め、千枚原遺跡や向山古墳群など多くの埋蔵文化財に恵まれています。

発掘調査前の遺跡、発掘調査中の様子、現在の風景などを、写真パネルや実際の調査で発見された遺物を展示しながら紹介します。



利用案内

休館日 毎週月曜日(祝日の時は翌日)

12月27日～1月2日

開館時間 午前9時～午後4時30分(11/1～3/31まで)

入場無料 (但し、楽寿園入園の際、有料)



●三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより Vol.29 No1(第82号)

発行日 平成17年(2005)11月20日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036
三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo

発行 三島市教育委員会